

差別のない明るい社会を

人権について、みんなで考えてみましょう

～北埼玉地区3市における人権に関する意識調査報告書から～

1 調査目的

北埼玉地区3市の人権に関する住民の意識の現状を把握し、その結果を、今後の北埼玉地区全体での人権意識の向上、部落差別意識の解消等の人権行政の推進に必要な基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の概要

- (1) 調査地域 行田市・加須市・羽生市
- (2) 調査対象 各市内に在住する満18歳以上の男女
(階層は、18～29歳、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上)
- (3) 標本数 各市1,000人 計3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの層化無作為抽出(令和元年10月1日現在)
※階層ごとの標本数及び男女の割合については均等とする
※外国人を含む
- (5) 調査期間 令和元年11月5日(火)～11月22日(金)
※市によって調査期間が異なる

3 調査項目

- (1) 属性(性別、年代)
- (2) 人権全般に対する意識について
- (3) 女性の人権について
- (4) 子どもの人権について
- (5) 高齢者の人権について
- (6) 障がいのある人の人権について
- (7) 同和問題(部落差別)について
- (8) 外国人の人権について
- (9) HIV感染者・ハンセン病患者等の人権について
- (10) インターネットによる人権侵害について
- (11) 災害時における人権への配慮について
- (12) LGBTなど性的少数者の人権について
- (13) 人権問題についての意見

4 回収結果

- (1) 調査票配布人数 3,000人
- (2) 回答者数 1,099人
- (3) 回答率 36.6%

5 回答者の基本属性【性別・年代別】 性別無回答4

	男		女		その他/回答しない	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
18～29歳	55	11.9%	85	13.7%	1	8.3%
30歳代	73	15.8%	127	20.5%	2	16.7%
40歳代	84	18.1%	122	19.7%	3	25.0%
50歳代	97	21.0%	127	20.5%	4	33.3%
60歳以上	151	32.6%	157	25.3%	1	8.3%
無回答	3	0.6%	2	0.3%	1	8.3%
計	463	100.0%	620	100.0%	12	100.0%



編集・発行 令和2年4月 北埼玉地区同和对策協議会



女性の人権

～男女が共に個性と能力を発揮できる社会を～



人々の意識や行動、習慣等の中には、いまだに、女性に対する差別や偏見、性別による固定的な役割分担などが見受けられ、職場での差別的処遇等も多く、様々な課題が残されています。

また、夫・パートナー等からの暴力（DV）、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などの女性に対する暴力は、極めて深刻な問題となっています。さらに、女性の人権を侵害する性・暴力表現などの情報が、インターネット等を含め、メディアにおいて増加しています。

私たちは、男女それぞれの立場から真の「男女共同参画社会」の実現に向け努力していくことが必要ではないでしょうか。

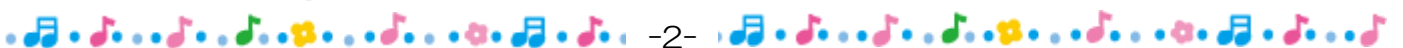
問 あなたは、女性の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【回答】

「男女平等や性についての教育を充実する」が40.4%で最も多く、次いで「捜査や裁判で、女性の担当者を増やし、被害女性が届け出やすいようにする」が29.0%となっています。

	回答数	構成比
男女平等や性についての教育を充実する	444	40.4%
捜査や裁判で、女性の担当者を増やし、被害女性が届け出やすいようにする	319	29.0%
女性のための人権相談、電話相談を充実する	293	26.7%
女性が被害者になる犯罪の取り締まりを強化する	293	26.7%
女性の就職機会の確保や職業能力開発の機会を充実する	272	24.7%
女性の人権を守るための啓発活動を推進する	240	21.8%
相談機関などが暴力を受けた被害者の意思や気持ちに配慮した対応をする	230	20.9%
議員、企業役員、行政の審議会等への女性の参画を促進する	225	20.5%
女性が暴力等の被害から避難するための施設を整備する	198	18.0%
特にない	53	4.8%
その他	19	1.7%
無回答	34	3.1%
計	2,620	

(回答者数 1,099)





子どもの人権

～ひとりの人間だよ～



子どもたちは、虐待や差別からの保護はもちろんのこと、教育を受けること、伸び伸びと遊ぶこと、自由に自分の意見を述べることや表現することが認められています。

そんな子どもたちの人格を大切にし、それぞれの子どもが持つ「すばらしさ」を尊重していく社会を築いていきましょう。

問 あなたは、子どもの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【回答】

「子どもに自分を大切にし、また、他人も大切にす思いやりを教える」が51.9%で最も高く、次いで「教師の人間性、指導力を高める」が43.6%、「家庭内の人間関係を安定させる」が33.2%となっています。

	回答数	構成比
子どもに自分を大切にし、また、他人も大切にす思いやりを教える	570	51.9%
教師の人間性、指導力を高める	479	43.6%
家庭内の人間関係を安定させる	365	33.2%
児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする	235	21.4%
子どものための人権相談、電話相談を充実する	233	21.2%
子どもの人権を守るための啓発活動を推進する	219	19.9%
地域の人々が、どの子どもにも関心を持って接する	207	18.8%
子どもが被害者になる犯罪の取り締まりを強化する	186	16.9%
子どもの人格を尊重する教育や意識啓発に力を入れる	167	15.2%
インターネットや携帯電話の利用等にかかわる規制を強化する	138	12.6%
マスメディアの情報(テレビの暴力シーン等)発信のあり方を見直す	71	6.5%
特にない	23	2.1%
その他	13	1.2%
無回答	24	2.2%
計	2,930	

(回答者数 1,099)





高齢者の人権

～いきいきと生きていくために～



人は誰でも年齢を重ねると、体力が衰えるなど体に不調が起こりやすくなったりします。若い人から見ると、気になるときがあるかもしれません。

しかし、「高齢者だから」というだけで、行動を制約したり、仲間はずれにしたりしていませんか？

高齢者の皆さんは、長い道のりを歩んできた人生の先輩です。この間に培った豊かな経験と知恵から学ぶことは、沢山あります。

豊かな気持ちで幸せになりたいと願うことに年齢は関係ありません。

だれもが年齢に関係なく、お互いの考え方や生活習慣を理解し、ともにいきいきと歩いていく社会を実現していきましょう。

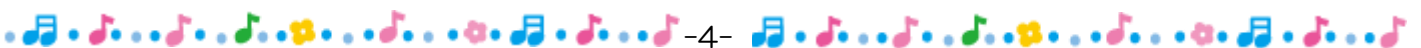
問 あなたは、高齢者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【回答】

「高齢者が自立して生活しやすい建物や道路など生活環境の整備を推進する」が43.3%で最も高く、次いで「悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る」が32.0%、「本人の意思を尊重した介護を行う」が28.8%となっています。

	回答数	構成比
高齢者が自立して生活しやすい建物や道路など生活環境の整備を推進する	476	43.3%
悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る	352	32.0%
本人の意思を尊重した介護を行う	317	28.8%
高齢者とほかの世代との交流を促進する	312	28.4%
高齢者の就職機会を確保する	308	28.0%
高齢者のための人権相談、電話相談を充実する	186	16.9%
高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する	172	15.7%
認知症等により判断能力の十分でない高齢者の財産を保全するため、預貯金の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サービスを充実する	167	15.2%
病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制度を充実する	162	14.7%
成年後見制度など、高齢者の権利と財産を守るための制度の利用を促進する	109	9.9%
特にない	49	4.5%
その他	16	1.5%
無回答	22	2.0%
計	2,648	

(回答者数 1,099)





障がいのある人の人権

～ともに生きる仲間～



障がいのある人を「かわいそう」と哀れんだりしていませんか？

「哀れむこと」と「思いやること」は、同じではありません。

障がいのある人たちも、一人の人間としてあらゆる社会の場に参加し、自分の役割を果たしていきたいと考えています。

障がい者は、特別な存在ではありません。

「かわいそう」でも「頑張らなければならない」存在でもありません。

障がいがある、ないにとらわれずに、一人の人間として、一緒に明るい社会を築くための仲間として、お互いが助け合う気持ちを持つことが大切です。

問 あなたは、障がいのある人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

【回答】

「障がいのある人の就職機会を確保する」が44.0%で最も高く、次いで「学校教育の中で、障がい理解教育を充実する」が41.9%、「障がいのある人が安心して外出できるように、建物の設備や公共交通機関を改善する」が40.2%となっています。

	回答数	構成比
障がいのある人の就職機会を確保する	484	44.0%
学校教育の中で、障がい理解教育を充実する	461	41.9%
障がいのある人が安心して外出できるように、建物の設備や公共交通機関を改善する	442	40.2%
障がいのある人の人権を守るための啓発活動を推進する	273	24.8%
障がいのある人とない人の交流を促進する	262	23.8%
障がいのある人のための人権相談、電話相談を充実する	184	16.7%
障がいのある人がスポーツや文化活動などに参加しやすくする	152	13.8%
成年後見制度など、障がいのある人の権利と財産を守るための制度の利用を促進する	132	12.0%
知的障がいのある人等の財産を保全するため、預貯金の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サービスを充実する	94	8.6%
病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制度を充実する	77	7.0%
特になし	44	4.0%
その他	14	1.3%
無回答	35	3.2%
計	2,654	

(回答者数 1,099)



同和問題

～正しく理解することが問題解決につながります～



「部落差別なんて、もうないよ・・・」 そう考えている人も多いかもしれません。しかし、本当に部落差別はなくなったのでしょうか。

同和問題とは、ある一部の地域に住んでいることや、その出身であるということだけで、理不尽な差別を受けるという、日本固有の人権問題です。日本社会の歴史的過程の中で形づくられた身分差別により、現在でも間違った認識や偏見を原因とする、就職や結婚差別が後を絶ちません。また、「そっとしておけばいい」という考え方が一部にあります。それで良いのでしょうか。

明治4年に身分制度が廃止されて140年以上経っても、差別がなくなったとは言えません。「寝た子を起すな」の考え方では、問題解決にならないばかりか、正しい知識を得る機会を失い、誤った知識や偏見など差別的な情報だけが伝えられ、結果的に差別を助長してしまう原因にもなります。

私たち一人ひとりが同和問題を正しく理解し、他人ごとではなく、人権を尊重することの大切さを理解し、行動していくことが必要ではないでしょうか。

問 あなたが同和問題について初めて知ったのは、誰（なに）からですか。（〇は1つ）

【回答】

「学校の授業、先生」が44.0%で最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）」が23.2%、「はっきり覚えていない」が10.3%となっています。

	回答数	構成比		回答数	構成比
学校の授業、先生	404	44.0%	近所の人	19	2.1%
家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）	213	23.2%	都道府県や市区町村の 広報紙やホームページ、 冊子等	13	1.4%
はっきり覚えていない	95	10.3%	親戚	11	1.2%
テレビ、ラジオ、新聞、本等	40	4.4%	その他	9	1.0%
友人	36	3.9%	無回答	17	1.9%
人権に関する集会や研修会	34	3.7%	計	918	100.0%
職場の人	27	2.9%			

（回答者数 918）

問 あなたは、住宅や生活環境を選ぶ際に、同和地区であった場合、避けることがありますか。

（〇は1つ）※回答者 1,099 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、181 人を除く

【回答】

「どちらかといえば気にしない」が28.9%で最も高く、次いで「まったく気にしない」が23.1%、「どちらかといえば避ける」が20.4%となっています。

	回答数	構成比
どちらかといえば気にしない	265	28.9%
まったく気にしない	212	23.1%
どちらかといえば避ける	187	20.4%
わからない	178	19.4%
避ける	62	6.8%
無回答	14	1.5%
計	918	100.0%

（回答者数 918）



問 あなたは、結婚や就職時の身元調査について、どのようにお考えですか。(〇は1つ)

※回答者 1,099 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、181 人を除く



【回答】

「よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う」が57.3%で最も高く、次いで「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う」が27.0%、「わからない」が7.8%、「身元調査をすることは当然のことだと思う」が6.0%となっています。

	回答数	構成比
よくないことだが、ある程度はしかたがないことだと思う	526	57.3%
身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでないと思う	248	27.0%
わからない	72	7.8%
身元調査をすることは当然のことだと思う	55	6.0%
無回答	17	1.9%
計	918	100.0%

(回答者数 918)

問 あなたは、同和問題（部落差別）を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(〇は3つまで) ※回答者 1,099 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、181 人を除く

【回答】

「同和問題への正しい知識を身に付けるための学校教育を充実する」が57.8%で最も高く、次いで「えせ同和行為を排除する」が33.3%、「同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておく」が24.2%となっています。

	回答数	構成比
同和問題への正しい知識を身に付けるための学校教育を充実する	531	57.8%
えせ同和行為を排除する	306	33.3%
同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておく	222	24.2%
同和問題を解決するための啓発広報活動を推進する	214	23.3%
インターネットを利用した差別を助長するような情報の防止対策を充実する	171	18.6%
同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる	159	17.3%
同和問題にかかる人権相談、電話相談を充実する	118	12.9%
わからない	82	8.9%
その他	41	4.5%
無回答	19	2.1%
計	1,863	

(回答者数 918)



外国人の人権

「外国人というだけで…」

～態度を変えたり、差別をしないで～



世界中には、いろいろな人種や民族が存在し、多様な文化があります。言葉が通じないから、国籍や肌の色が違うから、宗教や生活習慣が違うから・・・そんな「違い」を受け入れられず、心に壁をつくったり、関わりを持たないようにしていませんか？

宗教上の理由で食べられない物がある、その国の民族衣装で学校や職場に通うなど、私たちと違った習慣であっても、それぞれの立場を認め合い、ともに国際社会を生きる一員として、外国人に対するさまざまな人権問題を解決しましょう。

また最近では、特定の国籍の外国人を排斥する趣旨の言動として、「ヘイトスピーチ」が社会的関心を集めています。こうした行為は、外国人への差別意識を生じさせることにつながります。

外国人も日本人も一人の人間として、お互いを理解し合い、認め合い、助け合うことが大切なのです。

問 あなたは、外国人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【回答】

「外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する」と「外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める」が33.6%で最も高く、次いで、「外国人のための各種相談体制を充実する」が33.0%となっています。

	回答数	構成比
外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する	369	33.6%
外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める	369	33.6%
外国人のための各種相談体制を充実する	363	33.0%
外国人と地域住民との交流を図り、相互理解を深める	318	28.9%
日常生活に必要な情報を外国語により提供する	311	28.3%
外国人の就職機会を確保する	260	23.7%
外国人の人権を守るための啓発活動を推進する	172	15.7%
特になし	120	10.9%
外国人の地方参政権を認めたり、行政への参画を推進したりする	98	8.9%
その他	26	2.4%
無回答	41	3.7%
計	2,447	

(回答者数 1,099)



HIV 感染者・ハンセン病患者等の人権

～どんな病気なのか正しく、理解してほしい～



HIV 感染症・エイズ、ハンセン病などでは、その病気や感染経路についての偏見や無理解から、患者や感染者が差別されることがあります。

そのため、患者、感染者やその家族が安心して生活を送る妨げとなっているのです。

エイズやハンセン病に限らず、他の病気についても同じことが当てはまります。

病気と闘う一人ひとりが個人として尊重されるよう、病気について正しく理解し偏見・差別をなくしましょう。

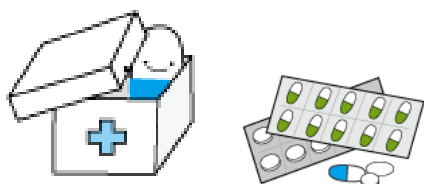
問 あなたは、HIV感染者・ハンセン病患者等の人権を守るためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【回答】

「エイズやハンセン病等についての正しい情報の提供や理解を深めるための教育・啓発を推進する」が68.3%で最も高く、次いで「感染者や患者等のプライバシーを保護する」が45.4%、4%、「感染者や患者等の生活を支援する」が27.2%となっています。

	回答数	構成比
エイズやハンセン病等についての正しい情報の提供や理解を深めるための教育・啓発を推進する	751	68.3%
感染者や患者等のプライバシーを保護する	499	45.4%
感染者や患者等の生活を支援する	299	27.2%
感染者や患者等の人権についての相談体制を充実する	254	23.1%
感染者や患者等の治療費を援助する	237	21.6%
感染者や患者等の就職機会を確保する	124	11.3%
特になし	102	9.3%
地域との交流を促進する	61	5.6%
その他	9	0.8%
無回答	34	3.1%
計	2,370	

(回答者数 1,099)





インターネットによる人権侵害



～便利、その一方で～

インターネットは、知りたい情報を簡単に入手でき、掲示板などで知らない人たちと気軽に交流ができるなど便利なものですが、その反面、匿名性を悪用し、人を傷つけたりする情報や、他人の個人情報などを簡単に世界に向けて発信できてしまう危険性もあります。

誰だかわからないからといって、何をしても良いというものではありません。

インターネットの危険性を十分に理解し、常に人権を尊重して、ルールとモラルを守って正しい利用を心がけましょう。

問 あなたは、インターネット上の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【回答】

「違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する」が73.8%で最も高く、次いで「プロバイダ（インターネット接続業者）等に対し人権を侵害する情報の削除を求める」が53.4%、「利用者やプロバイダ（インターネット接続業者）等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深める」が45.9%となっています。

	回答数	構成比
違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する	811	73.8%
プロバイダ（インターネット接続業者）等に対し人権を侵害する情報の削除を求める	587	53.4%
利用者やプロバイダ（インターネット接続業者）等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深める	504	45.9%
インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する	378	34.4%
表現の自由に関わる問題であり、対策には慎重な対応が必要である	149	13.6%
特になし	47	4.3%
その他	18	1.6%
無回答	47	4.3%
計	2,541	

(回答者数 1,099)





災害時における人権への配慮

～いつも以上に人権に配慮しながら
支援や復興に当たることが大切です～



2011年3月11日に発生した東日本大震災及びそれに伴う福島第一原子力発電所の事故では、根拠のない思い込みや偏見により、心無い嫌がらせや風評被害などの人権侵害が起きました。また、避難所では、プライバシーが保護されないといった問題もありました。

災害時は、多くの方が不安になります。だからこそ、災害時には一人ひとりが状況を正しく理解し、被災者や要配慮者（障がい者や高齢者など）に対する認識の確立も含めた人権尊重の視点で支援をするなど、全ての人の人権が適切に守られるよう、日頃から人権への配慮について、関心と認識を深めることが必要です。

問 あなたは、災害時に人権を配慮するためにはどのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【回答】

「災害時に対策本部を設置する行政の職員が、災害時における人権の配慮についての認識を十分に持つ」が44.6%で最も高く、次いで「避難から復興への各段階に応じ、被災者のニーズに応じた支援をする」が35.6%、「要配慮者（障がい者・高齢者・乳幼児・妊産婦・外国人等）の方々を、事前登録制度等を活用し、あらかじめ把握しておく」が31.2%となっています。

	回答数	構成比
災害時に対策本部を設置する行政の職員が、災害時における人権の配慮についての認識を十分に持つ	490	44.6%
避難から復興への各段階に応じ、被災者のニーズに応じた支援をする	391	35.6%
要配慮者（障がい者・高齢者・乳幼児・妊産婦・外国人等）の方々を、事前登録制度等を活用し、あらかじめ把握しておく	343	31.2%
要配慮者（障がい者・高齢者・妊産婦・外国人等）へ確実に情報が行き届くような手段を確立する	338	30.8%
女性、子ども、障がいのある人等人権課題ごとに災害時の人権を確保するためのマニュアルを作成しておく	334	30.4%
通常時から災害時における人権への配慮についての理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	322	29.3%
防災訓練等の際に妊婦用のブースを設置するなど、具体的な訓練の中で参加者に体感してもらう	269	24.5%
防災組織の中に、人権の配慮に関係する部局を設ける	135	12.3%
特になし	38	3.5%
その他	9	0.8%
無回答	49	4.5%
計	2,718	

(回答者数 1,099)



LGBT など性的少数者の人権

～みんなが「自分らしく」

生きることのできる社会を～



人はみな、生まれた時に判定された性別と自分が認識している自分自身の性別は一致している、また、恋愛対象は必ず異性であると思っていませんか。

しかし、一人ひとりに個性があるように、「性のかたち」もさまざまです。

「身体の性」と「心の性」が異なる人や、「好きになる性」が異性ではない人もいます。

また、男女どちらにも恋愛感情を持たない人、自分の性を男女どちらにも決めない人、決められない人、決めたくない人など、さまざまな人がいます。

どれが正しい、どれが間違っているというものではなく、どんなかたちも、その人らしさを表しています。

「性のかたちはいろいろある」ということを理解し、認め合い、みんなが「自分らしく」生きていける社会を築くことが大切です。

問 あなたは、性的少数者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで) ※回答者 1,099 人から「性的少数者に関する言葉を知らない」と回答した者及び無回答の者、191 人を除く

【回答】

「性的少数者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が42.5%で最も高く、次いで「更衣室やトイレなどに対する配慮」が41.9%、「幼少期からの教育の充実」が38.5%となっています。

	回答数	構成比
性的少数者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり	386	42.5%
更衣室やトイレなどに対する配慮	380	41.9%
幼少期からの教育の充実	350	38.5%
性的少数者の人権を守るための啓発活動を推進する	257	28.3%
性的少数者のための各種相談体制を充実する	250	27.5%
行政職員や教職員に対する研修の実施	203	22.4%
マスメディアやSNSの情報発信のあり方を見直す	187	20.6%
特にない	61	6.7%
その他	17	1.9%
無回答	22	2.4%
計	2,133	

(回答者数 908)



まとめ



問 あなたは、市において、人権教育・啓発をどのように進めたらよいと思いますか。(〇は1つ)

【回答】

「もっと積極的に行ったほうがよい」が43.8%で最も高く、次いで「今までどおりでよい」が26.9%となっています。

	回答数	構成比
もっと積極的に行ったほうがよい	481	43.8%
今までどおりでよい	296	26.9%
わからない	148	13.5%
必要最小限度行えばよい	90	8.2%
その他	31	2.8%
行う必要はない	7	0.6%
無回答	46	4.2%
計	1,099	100.0%

(回答者数 1,099)

21世紀が「人権の世紀」と呼ばれて約20年が経過していますが、残念なことに、未だに、女性、子ども、高齢者、障がいのある方、同和問題、外国人の方など、多くの人権が侵害されています。

私たちは、かけがえのない一人の人間として尊重され、幸せな生活を送る権利を日本国憲法で保障されています。

人権侵害は、基本的人権にかかわる社会問題であり、一日も早く解決していくことが現代を生きる私たちの課題となっています。

この調査結果を踏まえて、一人ひとりが「人権」についてさらに理解を深め、人権尊重社会の実現を目指していくことが大切です。

〈 各市のキャラクターデザイン 〉



行田市



加須市



羽生市

